

高議第 169 号

令和 7（2025）年 3 月 27 日

高根沢町長 加藤 公博 様

高根沢町議会議長 加藤 章

常任委員会日常調査からの町政運営に対する提言について

令和 6 年度に常任委員会で行った日常調査から、町に対し別紙のとおり提言をいたします。

この提言に対する回答は不要ですが、提言の内容を踏まえて今後の町政運営に取り組まれますようお願い申し上げます。

## 日常調査からの提言

### (1) 子育て支援の充実について

#### ・ 保育園の運営について

町では子育て支援を充実するため、民間保育園の施設整備を積極的に支援し、児童の利用定員を増加させてきたことから、「待機児童ゼロ」の町になっています。今後も更に安心して子育てできる町となるよう、努力する必要があります。

利用定員を確保するためには、施設基準を満たすだけでなく保育士等の十分な確保も必要です。その保育士を確保するため、保育園職員の処遇改善について町としても助言等の支援すること。

小規模保育園の園児は3歳になると、他の保育園や幼稚園などに転園しなければなりません。転園についての保護者の不安や負担を解消するため、連携施設の確保について、町からも働きかけること。

公立保育園の役割の一つは、医療的ケア児や発達障害児等の特別保育を積極的に担っていくことだと思われまます。特別保育を求める児童の受け入れに支障がないよう、専門的な職員の配置と研修の充実を図ること。

#### ・ 子育て支援について

公立保育園2園を1園とする計画がありますが、にじいろ保育園内に設置している子育て支援センターれんげそうやファミリーサポートセンターの事業は継続していくこと。

本町の子育て施策は充実していると思われ、それを周知するための冊子「子育て応援隊」に掲載がされていますが、冊子の内容や見やすさについては他自治体のものの方が勝っています。栃木市の「子育てガイドブック」を参考に、妊娠から出産、子育てに関する必要な手続きやサービス、行政情報などの多方面の情報を記載し、より分かりやすい冊子を発行すること。

### (2) 自主防災組織の構築について

#### ・ 防災士に活躍の場を

町ではこれまでに防災士資格取得補助金の交付や防災士養成講座の開催を行い、町内に約80名の防災士が存在するようになりました。そして、7月26日に実施した「防災士と議員とのカフェ・ド・ギカイ」では、出席した防災士から、スキルアップの機会や活躍の場を求める意見が多く出されました。それらのことから、防災士が活躍するために、町に対し以下のことを求めます。

防災士同士の繋がりを持つため、防災士の組織づくりを行うこと。

防災士を対象としたスキルアップ研修を開催すること。

防災士が地域との関わりを持つために、自治会や消防団と連携できる機会を設けること。

#### ・ 機能する自主防災組織の構築を

本町の自主防災組織は、自治会役員の氏名を記入して町に提出しただけで、実際には機能せず形骸化している組織も多くあります。

自主防災組織が災害時に機能する組織となるよう、行政主導で防災士を取り込んだ組織へと再構築すること。

自主防災組織の活動を通じた自治会加入率向上を図ること。